留学報告書

アリゾナ大学植物科学科
種田　修三

サンプリング旅行第３弾として２０１８年５月末から約３週間、東南アジアのボルネオ島へ訪れた。 カリマンタン島とも呼ばれるこの島はマレー半島の東、フィリピンの南西に位置している。一つの島にマレーシア、インドネシア、そしてブルネイの３国の領土があり、我々が今回旅したのはマレーシア領土内のリゾート地として有名なコタキナバルだ（写真１）。今回の報告書では、このコタキナバルでのサンプリングについて振り返りたい。

旅のメインイベントはキナバル山でのサンプリングであった。キナバル山は マレーシア最高峰で、標高は４０９５ｍである。とはいえ登山道がしっかりと整備されており、登山初心者でも登頂できる山としてとても人気がある。登頂のために前泊する山小屋の宿泊予約は半年も前に埋まってしまうほどらしい。一般的なハイキングプランとしては、標高約１８００ｍにある登山口から標高３３００ｍにある山小屋までの６ｋｍのコースをおよそ５、６時間かけて登り切る。そして山小屋で一泊し翌朝に山頂アタックのようだ。６月のキナバル山は午後になると雨が降り濃霧になるため、できるだけ午前に登山をした方がいいということで、我々も午前９時に登山口に到着した。しかしここで問題発生。登山前に国立公園事務所で入山登録と山小屋の予約を確認しなければならないのだが、山小屋の予約がありませんというまさかの回答をいただく。事務所に詳しく話を聞けば、代理で予約をお願いしていた現地スタッフが山小屋へ予約の電話をしたのが登山の前日の夜という。半年も前に埋まるような山小屋の予約が前日の夜に取れるはずもなく、一同驚きを超えて呆れてしまった。我々は半年ほど前からそのスタッフの方に予約をお願いし、予約も確認できたと連絡を受けていたのだ。今までのメールのやり取りはなんだったのかと教授陣も嘆くばかり。それはともかく、予約がなければ登山もサンプリングもできないので、教授たちの必死の強引な交渉が始まった。数時間後、特別に国立公園スタッフ用の部屋にグループ１２人すべて宿泊できることになった。教授陣の若干強引な交渉スキルには毎回驚かされるばかりである。

こうして登山の準備が整ったのが正午過ぎ。すでに外は土砂降りの雨。我々のグループはそんなの関係ねえ！ので、ずぶ濡れになって登山を開始。雨天の登山というだけで若干気が滅入る。そのうえ階段の段差がやけに高い、というか私の足が短いのか、こういうところこそユニバーサルデザインが必要だろ、、、などと頭の中で悪態をつきながら登る。しかし、登山はこういった自分自身との戦いも醍醐味のうちなのだろうと言い聞かせ、なんとか３時間半ほどで山小屋まで登り切ることができた。登りきったときの気分は最高で、えもいわれぬ達成感にしばし包まれた。その時の街を見下ろす景色、そして目と鼻の先に山頂を仰ぐ景色は決して忘れないだろう。

その後部屋につくと、気がついたことが２つ。シャワーはお湯が出ないことと、部屋にヒーターが無いこと。これは標高３３００ｍの環境においては辛い。風邪を引く確率を上げるか不潔かの二択で迷い、結局キナバル山に滞在した３日間はずっとシャワーに入ることはなかった。同様の理由でシャワーに入らないメンバーも結構いたので、

我々はキナバル山で最も臭うグループだっただろう。翌日、サンプリングのために再び登山を開始、約３６００ｍ地点でサンプリングを行った（写真２）。その翌日の早朝はあいにくの雨で山頂アタックはできなかった。その後サンプリングをしながら下山した。いろいろとあったが、サンプリング自体は予定どおりに進み、非常に納得のいくものになった。

写真１：コタキナバル近くのリゾート島　　**写真２：キナバル山の標高約 3500m 地点**

ボルネオに来たのはキナバル山があるからだけではない。熱帯雨林もあるのだ。この旅では熱帯雨林で４箇所ほどサンプリングを行った。そこでは様々な生物との遭遇に満ちていた。まずは蛭。登山道の脇草にくっついて非常にアクティブに我々の足元に張り付いてくる。下からだけでなく上から降ってくる蛭もいて、サンプリング中ひたすら蛭を剥がす作業に明け暮れた。幸い私は一度噛まれただけだったが、ある研究者は足が血だらけになっていた。猿にも会った。ボルネオ島で有名なオランウータンやテングザルには合うことができなかったが、ニホンザルのような猿にメンバーの一人が攻撃された。私はグループの最後尾だったので、威嚇され追いかけられた。彼らは私が振り向くと動きを止め、歩きだすと再び追いかけてくるので、だるまさんがころんだ状態が５０ｍほど続いた。この他にもサンプリング中に１０ｃｍほどのフッサフサの巨大毛虫を触ってしまい悶絶したことや、憧れだった野生のカブトムシをたまたま見つけるなど、たくさんの予期せぬ出会いがあった（写真３，４）。

写真３（左）：
食虫植物の中にあるカエル（？）の卵

写真４（右）：
マレーシアで見つけたカブトムシ

前回とは異なり、今回のサンプリング旅行では自由時間が多く取れたので、ミシシッピ大から来ている学生と共にマッサージに行った。なぜマッサージかと言われるとキナバル登山後だったため単純に疲れていたのと、６０分１５００円と非常に安いというのが理由である。我々が訪れたマッサージ店の中では、暗がりの中にカーテンで仕切られた空間が左右２つ並んであり、それぞれにベッドが置いてある。友達は右へ、私は左へ案内された。店員が左の空間のカーテンを開けると、おばさんがベッドに寝ているではないか。。。一瞬凍りついたが、その方も店員だったようで、気づくとすぐにどいてくれた。おかげでベッドが生暖かい。いいサービスだ。隣で見ていた友人は笑いを噛み殺していた。

と、こんな感じで終わった今回のサンプリング旅行は、今までで最も印象に残るものだった。この他、安くておいしいマレー料理に舌鼓を打ったり、サンプリングを邪魔し続けるトゲのあるヤシの木にキレそうになったりということもあった。それはまた次の機会にでも書こうと思う。雨のキナバル山、多様な生物、ベッドに残るほのかなぬくもり。これらもリゾートに負けずとも劣らないコタキナバルの魅力だろう。これらを存分に楽しむことができた、充実した旅であったのは言うまでもない。